

令和 7 年度 第 2 回伊丹市環境議会 議事録

日時：令和 7 年 10 月 23 日（木）14 時 00 分～
場所：伊丹市役所 2 階 第 2 委員会室

内 容：1) (仮称) 北伊丹物流施設計画に係る環境影響評価準備書について
2) 伊丹市環境基本計画（第 3 次）（改訂版）にかかる年次報告について

出席状況：13 名中 9 名出席

出席者：塚口会長、菊井副会長、服部委員、中野委員、亀田委員、島田委員、
横山委員、辻野委員、山野委員

欠席者：宮川委員、三宅委員、岸本委員、田中専門委員、吉村委員

傍聴者：4 名

配布資料

資料 1：伊丹市環境審議会 委員名簿（次第裏面）

資料 2：(仮称) 北伊丹物流施設計画環境影響評価準備書（事前配布）

資料 3：令和 7 年度伊丹市環境審議会及び専門委員会での（仮称）北伊丹物流施設計画に係る委員
意見と事業者等回答

資料 4：令和 7 年度伊丹市環境審議会及び専門委員会での（仮称）北伊丹物流施設計画に係る委員
意見と答申案

資料 5：(仮称) 北伊丹物流施設計画に係る環境影響評価準備書に対する伊丹市環境審議会答申書
案

資料 6：令和 6(2024) 年度伊丹市環境基本計画（第 3 次）（改訂版）年次報告【要約】

資料 7：令和 6(2024) 年度伊丹市環境基本計画（第 3 次）（改訂版）年次報告

資料 8：令和 6(2024) 年度伊丹市環境基本計画（第 3 次）（改訂版）年次報告（事業・活動・参考指標）

1. 開会

＜事務局＞

・出席状況の確認

事務局より、伊丹市環境審議会規則に基づき、本審議会が成立していることを報告。

・傍聴者の人数報告

・配布資料の確認

＜審議会＞

・議事録署名委員の指名

会長より、菊井委員、山野委員を選任。

2-1. (仮称) 北伊丹物流施設計画に係る環境影響評価準備書について

＜事務局＞

・資料 3、4、5 の概要説明

資料 3 は、審議会及び専門委員会にて各委員よりいただいた意見及び各々に対する事業者回答を、
全 11 項目の環境項目等にカテゴライズしたもの。資料 4 は、資料 3 をベースに環境項目ごとの準備書に対する答申の案を示したものであること。資料 5 は、答申案のみを抽出したものであることを説明。

<事業者（野村不動産株式会社）>

- ・専門委員会にて意見のあった、大気汚染における二酸化窒素の追加予測内容を説明。

2-2. 質疑応答（専門委員意見に対する追加予測について）

○委員

状況は理解した。指針値内に収まるとの予測ではあるが、一般的な環境濃度と比較すると高い値であることには変わりないので、工事中及び供用後も、引き続きの監視をしてもらったらと思う。

→事業者

了承。

※事業者退席

2-3. 質疑応答（分類された環境項目ごとの答申案について）

<1 事業計画>

○委員

答申案の中に事後報告や工事中の報告が出ていないのは何か理由があるか。

→事務局

全般事項から新たに追加した『環境保全措置』の（エ）に移動させている。

○委員

工事中と供用後はどちらも報告がきちんとされるということか。

→事務局

工事中及び供用後の各々における予測のピーク時に測定いただく計画をあらかじめ提出いただき、その測定結果を報告いただく予定である。

○会長

確認だが、事後監視の中に工事中も含まれていると考えていいのか。

→事務局

準備書にも記載があるが、両方が含まれているという認識である。

<2 環境保全措置>

意見なし。

<3 交通>

意見なし。

<4 大気汚染>

○委員

「供用後の」事後監視調査を実施としか書かれていないが、工事中のことも追記いただきたい。

○会長

事務局は特に工事中を除くという意図があるのか。

→事務局

前回の専門委員会では、主として供用後の話であったため、このような表現としていた。工事中も含める方が良いという意見であったので、工事中の事後監視も追記したい。

<5 騒音・振動・低周波音>

○委員

「それらの対策を明記すること」いう表現がわかりにくい。それらの対策というのは、騒音・振動・低周波音のことか。具体的に何を想定されているのか。

→事務局

近隣住民とのコミュニケーションをどのように図るのかを記載いただくことを想定している。

○委員

そう説明を受けるとわかる。

○会長

例えば、「対策」と言う表現を「活動状況」という表現にしてはどうか。

→事務局

検討・修正する。

<6 日照阻害>

意見なし。

<7 電波障害>

意見無し。

<8 廃棄物>

意見なし。

<9 景観>

○会長

委員には、確認は取られたか。

→事務局

別途、確認はしていないが、事前に資料を送付し、何か意見があれば連絡いただきたい旨を伝えていたので、問題ないと認識している。

<10 地球環境>

意見無し。

<11 動・植物>

○委員

シルビアシジミが、絶滅危惧 IB類というのは国の基準であるので、伊丹市の基準であるAランクということも併記してはどうか。

→事務局

検討・修正する。

<12 全体を通して>

○会長

答申案を以下のように修正すること。

①資料4の7ページの『大気汚染』の（ア）供用後の前に「工事中及び」を追加する。

②同じく、7ページの『騒音・振動・低周波音』の（ア）「対策」を「活動状況」といった趣旨の表現に変更する。

③同じく、12ページの『動・植物』の（ア）絶滅危惧 IB類の後ろに「伊丹市の基準：Aランク」を併記する。

→事務局

検討・修正する。

3-1. 伊丹市環境基本計画（第3次）（改訂版）にかかる年次報告について

<事務局>

- ・資料6、7、8の概要説明

3-2. 質疑応答（年次報告について）

○委員

整理番号 14 の環境イベント・講座等に参加した人数の折れ線グラフは何を指しているのか。実績値が目標値を大幅に上回っているため、目標達成率として%で表現した方が分かりやすいのではないか。

→事務局

折れ線グラフは中間見直し前の目標値を示し、棒グラフの実績と数値が離れているため分かりづらくなつたと考える。中間見直しでは実績に合わせて目標値を上方修正しているため、見づらさは解消されると考える。

○会長

実数か或いは達成率で表す方が分かりやすいか、指標を見直してもよいかもしない。

→事務局

各資料の中でどのような表現ができるか再度検討し、分かりやすく提示できるよう考えたい。

○委員

成果指標の自然緑化活動に参加している団体数の 107 という数値だが、緑化活動に関わる団体が多く、生物多様性に関わる団体は少ないのではないか。成果指標のみどりに対する市民満足度の実績は良好という結果ではあるが、伊丹には本来的な自然はほとんど残されていないという認識でないと生物多様性は回復できない。また、要約版のコラムに記載されているフサヒゲルリカミキリは絶滅危惧 IA 類に該当する種で、昆虫館による保全活動は国の施策上大変重要な取り組みではあるが、伊丹に生息する希少種であるシルビアシジミの保全も優先的にやってほしい。保全計画を立てようにも環境審議会の部会であるみどり環境部会は 3 月末に開催されており、報告のみに留まってしまつているので、もう少し早くやってほしい。

○会長

シルビアシジミの記載をもう少し大きくできたらよいと思う。

→事務局

ご意見承り、今後の取り扱いについて検討する。

○委員

成果指標 2 の市域からの温室効果ガス排出量（推計値）では、2021 年度の進捗状況から最終目標を達成できる見込みということであるが、数年遅れて出される国の基礎資料を基に算出することは透明性、信頼性、合理性に欠けないか。環境省が出している自治体排出量カルテの指標を使って客観的でより迅速な判断を行つてはどうか。現在 2022 年度の数値が出ており、簡易的に計算したところ 2030 年度 48% 削減に対して進捗率は約 60% となり、進捗はやや遅れていると言える。（後段に訂正発言あり）

→事務局

一般的な統計データから按分するという方法をとっているが、製鉄業等の伊丹市にはない一部の産業等は省いて算出している。そのため、環境省のカルテと若干変わっているところがあるが、より実態に即した数値を算出し、概ね順調と考えている。

○委員

要約版の生活環境の保全等の分野で掲載している水質調査のパックテストはイベントで実施したものか。

○事務局

猪名川流域で一斉に調査するイベントがあり、国土交通省猪名川河川事務所が開催しているものに参加している。

○委員

公定法に則つて BOD を精密に測定することは本来大変な作業であるが、パックテストの写真の下に環境基準達成率（水質 BOD）のグラフを載せてしまうと、関連付けて常時監視の水質調査がこんなに簡単に実施されるものだと思われるのではないか。大気や騒音・振動を含めた環境の常時監視は今後も継続的に実施されるべき大切な事業であるから、誤解されないように別物であることが分かるよう説明を加えた方が良いのではないか。

→事務局

誤解のない表現にしたいと思う。

○会長

要約版はどのように使うのか。

→事務局

市民の皆さんに環境に興味を持つていただくことを主目的として、どのような事業が実施されているかが分かりやすいよう画像を多く取り入れて作成した。

○会長

要約版を入口としてより様々な資料やデータを見もらえるよう、うまく誘導するような使い方の工夫を願う。

→事務局

効果的な使い方について検討する。

○委員

さきほどの自治体排出量カルテによる市域からの温室効果ガス排出量の削減量について、2022年度実績での進捗率なので、概ね順調に進捗していると理解した。

→事務局

本指標についてはご提案も参考とし、次期計画策定時までに最適な算出方法を検討しながら進めていく。

4. その他

<事務局>

・今後のスケジュールの説明

11月11日までに、第2次審査意見書を伊丹市より事業者に送付予定。その後、先述の意見書に対する事業者見解を反映した環境影響評価書を求め、受領次第、皆様に展開予定。

○会長

以上で、本日の環境審議会を終了とする。

4. 閉会

以上